

# アイドリング脳研究： 潜在意識下の情報処理

## 井ノ口馨博士



アイドリング脳科学研究センター センター長  
富山大学 医学部 生化学講座 教授

2026年2月17日(火) 午前10時

場所:JKiC Conferenceroom 2&3

脳は課題遂行中だけでなく睡眠中や休息時にも活動しており(アイドリング状態)、アイドリング中にさまざまな情報処理をしていることが明らかになりつつある。脳がアイドリング中に創造的なアイデアなどが出やすいことなどは昔から良く知られている。ところが、アイドリング脳に関する研究はそれほど進んでおらず、そのメカニズムや機能には不明な点が多いままである。

それらが明らかになれば、脳が持つ潜在的な能力を引き出すことができ、QOLの向上に繋がることが期待されるとともに、認知症やさまざまな精神疾患への新たな対処法の創出にもつながると期待される。

本講演では、アイドリング脳の活動や機能を科学的な根拠(物理化学を基盤とした実験データ)に基づいて理解することを目指す私たちの最近の研究成果をお話する。「睡眠中に行われているさまざまな情報処理」、例えば推論や情報の同化、記憶エンگرامの進化、忘却記憶のエンGRAMなどにフォーカスする。